

25/5/15 名古屋市議会経済水道委員会（広沢市長分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：それではただいまから経済水道委員会を再開をいたします。休憩前に要求のありました広沢市長への出席につきまして、正副委員長に協議をいたしました結果広沢市長にはご出席をいただいております。それでは、市長に対する質疑を含め、質疑等があればお許しをいたします。

田中里佳（民主・天白区）：すいません、多分この後、浅井プロが控えておりますので、私ちょっと1点だけっていうか、1件だけちょっと市長に聞きたいなと思ったことがさっき出たので、聞かせていただきます。

私はビッグイベント。実現に向かっては、ある程度のやっぱり強引さ、ある程度必要だっていうのは思ってるんですそれを思った粥を持った上で、大きい本編の74見ると、何かをやり遂げるには、ある程度行くぞっていう気持ちがあるということを理解した上でもやっぱりこれを見ると、多分これ全部じゃないと思うんです。

すごいなんかね、胸が痛い職員の苦悩や葛藤、読むと、市長はこれ読んで、どう思われたかだけ感想お聞かせいただければと思います。もし読んでなければ今読んでいただければ。

広沢市長：今お問い合わせいただきました件につきましてはですね、この確かにリーダーシップをとるにおいてはですね、多少の強い意気込みであるとか、あとは超強いことは、というのが、まああろうかと思いただそうですね、この職員のお言葉を見ますと、やはり相当プレッシャーに感じていたんだと、私自身の進め方で言いますとやはりプレッシャーをかけて前に進めるというよりはですね同じ目標を共有をして、そしてどうやったら一番合理的に物事が進むかこれをぜひ一緒に考えてほしいとそういう態度で臨むこれは民間時代からもそうしておりましたのでいささか感想を読むとですね、私のやり方とは多少違うのかなとちょっとプレッシャーが強すぎるんじゃないのかなという、そういう感想を持ったところでございます。

田中里佳（民主・天白区）：ありがとうございます。以上です。

浅井正仁（自民・中川区）：市長、すいません。今日はありがとうございます。どうしても市長さんにもこの総括が出て、大きい。局にも聞いた先ほど副市長おいでいただいて聞かさせていただいた。市長さんに聞くというところでございまして、最初、同じ質問をさせていただきたいと思います。この今回観光文化交流をまとめた総括を副市長も目を通したとおもったのでまず、思うまず、どう思ったのか。

広沢市長：私もですねこの報告書、そしてこの総括が出て来、しっかりと目を通していただきました。

また観光文化交流局からはですね副市長も同席したうえで、複数回いわゆる説明を受けておりまして、そんな中で私自身もですねいろいろと私この間のやり取りの中で4年間で2017年から4年間は副市長をしておりまして、その前の経緯についてはある程度その当時の調べて知っておったんですが、私が単にこの令和3年からのこの過去の4年間についてもかなり詳細に知ることができたところでございまして、そういう立場からもですね私もいろいろと意見を述べさせていただきまして、市長からもいろんな意見をもらいました。そういう中でしっかりとこの議論を重ねて総括に至ったと、しっかりとある程度まとめ、しっかりとまとめることができたというふうに認識をしております。

浅井正仁（自民・中川区）：これで十分だと思っているということで、よろしいですか。

広沢市長：この総括はですね、何を目的としているかという観点で申しますとこれはあくまでこれが目的ではなくここを一つのきっかけといいますかですね。ひと区切りとして、それでこれから障害者の方へのご説明であるとか、そういう前向きな作業に進むということでございますので、これで終わって、自分でという観点からするとですね本番はこれからだという気持ちでおります。で本来、今回のですねこの総括にあるに至った根本の原因でありますこの差別事案というものはですね、本来この人権尊重であるとか、この障害者差別解消を先導すべきであるという行政としてはですね決してあってはならないそういう問題であったというふうに考えておりまして、また組織としてまた1人職員1人1人、大変に重く受け止めなければいけない事案そしてまた深く反省をして信頼回復にですね、全力を挙げて取り組んでいけばならないことだと、こういうふうに考えております。

そんな中でですね目標、昨年9月にこの検証委員会から提出をされましたこの最終報告ではこの差別事案を生じさせた直接的な原因だけでなく、その背景であるとか、遠因についても広く指摘をされているところでございまして、市長就任後、私今年の11月ですが、この市長就任後にですね、観光文化交流局に対しまして、この事業全体をこの振り返った総括を指示をしたところでございます。

その結果ですね、この今回のこの総括におきましては、市民討論会にとどまらず、これまでの天守閣整備事業全体を深く、掘り下げて、そしてこの問題点の抽出、そして今後に向けた基本的なこの方針そして、再発防止策等を取りまとめることができたかなというふうに感じております。

ただ我々自身がどう思うかということよりも一番大事な繰り返しになりますが、今後、障害者団体の皆様、そして市民の皆様の理解がしっかりと得られるかどうか、ここにかかっておりますので、今後、丁寧にご説明をさせていただきたいと思っております。以上です。

浅井正仁（自民・中川区）：市長さんはきっかけと言われた。

障害者団体の方にも説明と、先ほどの佐治局長は、いつなかわかんないんだけど、障害者の方に会われた。市長さんは行かれたんですか。会われた。いいですか。

広沢市長：すいませんちょっと相手方があることですので、詳細は差し控えます。私もお1人2月7日この市長就任後ごあいさつをしています。

浅井正仁（自民・中川区）：この総括を、佐治局長は総括のこれを持って行って、

広沢市長、失礼しましたこの総括を持っては、私はまだ。

浅井正仁（自民・中川区）：そうすると、市長就任をされてご挨拶をしたということですか。

広沢市長：ご指摘の通りでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：そうするとこの後、やっぱり名古屋市のトップとして、もちろん謝罪なり説明というところで、というところの考え方はどうことでしょうか。

広沢市長：私もですねできる限り直接出向いて真摯にご説明できればというふうに考えてはいます。

浅井正仁（自民・中川区）：この総括の中で数々の課題が示されていますが、市長さんとしては、あるいは当時の副市長でもあるんですけど、何が一番の問題であったと意識しているのかお答えください。

広沢市長：委員ご指摘の点でございますけれども、この検証委員会の最終報告、そして今回の総括では非常に多岐にわたったような課題が指摘をされておりますけれどもまずもってですね、まずやはり根本的にはこの市民討論会でですね、この差別事案を引き起こしてしまったことをこれが最大の大問題だというふうに考えておりましたその反省最初投資が大事だと思う考えております。

先ほど申しましたように2017年からの4年間副市長やっておりましたけど当時を振り返りますとですね、天守閣整備事業につきましては、今議会を初め、車いすの方々、各部会の先生方そして文化庁であるとか、障害者団体だとか、いろんないわゆるステークホルダーの方にいろいろお話を伺いながら、そして丁寧に合意形成をそういう必要がございます、そういう中でですね、一つ一つこの課題をクリアし、そして前進させていくという、こういう録画と、そういう労力が伴うというそういう作業でございました。そしてですね、主要今回のこの委員会でも長くいろいろと取り上げられたところでございますけれども至上命題となっております。この竣工期限こちらが迫りましてですね。

また天守閣、が、耐震性の観点から閉館し、そしてまた解体先行現状変更許可を、らしいそしてまた、石垣保全のそして、またバリアフリーの問題など極めて多種多様な課題を同時並行的にこなせる。

こなすことが、我々求められているそういう中、今思えばですねやはり、スケジュール優先したそうしたということはですね、拙速と言われても、致し方ないかなとふうに今思えば反省をいたしますし、また前市長が1階までであれば十分合理的配慮という発言についてですね、これは河村前市長のそういう言葉というのは、結構その場その場で変わったりもしております、それについては私もそばにいた者として若干憂慮しておったところでございますけど、この言葉は本当になんといっても、その当局とは一度、いろいろ話ことでございますので、結果としてですね混乱を招いたということはこれ否めないというふうにありましたので、その点においてはですね、この合意形成という点においてずっとその間、問題があったのではないかと感じております。以上です。

浅井正仁（自民・中川区）：合意形成。その通りだよね市長。当時副市長で、市長がおったその辺はどう考えましたか、

広沢市長：ご指摘の通り、当時私も副市長しております。この名古屋城そして、この観光文化交流部所管をしておりました。その中でですね名古屋城だけでなくいろんな局でですね河村市長とはいろいろな議論いたしまして、最終的にいろんな説得をする場面もございました。例えば、SLの件とかですね最終的に折れていただいたようなことになりましたし、いろいろと色々な結末を変えたことがあったんですけど、この名古屋城に関してはですね本当になかなか河村市長はですね、この当局はそして私当局と同じ意見を持っていて、その日ですね。

なかなかそういう機会で、1回ですんなり行かなかったそういう思い出もございます。それでなかなかこの合意形成という点においてはいろいろ苦勞いたしまして終わりました。私市長に就任をさせていただいてからですね。

極力、とにかく局の意見をよく聞いて、ただ言われるばかりではいけないので、しっかりと話をし意見も伝えた上でですね、どこで最終的にどこでいこうかというのはパチッと決めたら、そっからは絶対ぶれないことが大事だと思う。

例えばこのエレベーター問題についてはですね、私は観光文化交流局と、打ち合わせをしましてそれで、可能な限り江戸情緒を損なわないとか、いわゆる本質的価値への理解をえてという条件は一部付けさせていただきましたが、可能な限り上に全ての方を車椅子でもお上がりをいただきたいということで思うことで、局と合意をいたしまして、もうその方針は未だにぶれておりませんので今後はそういうしっかりとした合意形成を局とも、そして議員の皆様方とも図ってそして市政を進めていきたいというふうに考えております。上です。

浅井正仁（自民・中川区）：今、エレベーターの話が出た。河村市長が最後のこの委員会来ていただいたときに、僕との話で市長さんがエレベーターをつけると言ったらどうするんですか。質問は、前河村市長にさいていただいたら、そしたらどっか行っちゃったな資料。ちょっと覚えていくけど、そのときに仮定の話はできませんって言われてその後で、誰が欲しいんですか。

で、僕がね、僕が欲しいみたいな話になったんだけど、仮定の話って言われた。

でも今も現実、仮定じゃなくなったんですよ。新しい広沢市長が言われた。

でも河村市長は誰が欲しい。もし前市長から広沢氏エレベーターは駄目だって言ったら、広沢市長、どうされる。

広沢市長：はい、もうこれ申すまでもないことでございますけど、もう今年の 11 月 24 日以降はですね、私が市長でございますので、市長から指示を受けるという立場ではないということでございますのでそこに何か左右されてですね意見を変えるということはい

浅井：素晴らしいだね。もう一つ聞かせてもらう。

そのときに、河村氏、前市長はね、国会に行って、文教委員になって木造の車いすをどうのこうの。

そのとき、一緒にやろうって僕言われたんだよ、僕はその人に僕はそんなところ行って、この場で言われてもみたいな話があったんだけど、例えば文化庁に一緒に行こうと言われたとき、市長はどうされるのか。

広沢市長：仮の話ですけどもし文化庁に一緒に行こうと言われたときは、その趣旨を伺います。

その趣旨がわゆる一般論としての木造復元の推進を、文化庁に訴えに行く、そういうようなものであればですね、これは当然、そのまいます、例えば木造復元は、エレベーターをつけない、もしくは、このいわゆる小型昇降機だとならないみたいなことを訴えに行くということをやったらこれはちょっと、一緒には行けませんので、これはその内容次第かと思っています。

浅井正仁（自民・中川区）：広沢市長、甘くない前市長がさ何で止まるはずないしょ行ったら何言うかわからんそんな保証ない。仮にそこで前市長は、エレベーターの話を持ちかける。そしたら同じ意見だと思われるよ。

市長、そこで否定をするならば市長が、何で違う 2 人が来るんだ。意見をまとめてからこういう昔の話に、昔そういう話があったじゃん、そういう話になるんじゃ。それを踏まえて市長さんどうされる。

広沢市長：これもか、仮定の話なんなりますけどもし例えば、ざっくりとしたですね木造復元を推進するということで行こうと言って、文化庁に言ったとします。

その中でですね、名古屋市の方針と違うことをもし、河村市長がですね主張されて、こうだろうって言われたら、いやそれは今は違えますっていうこれはしっかりとそれで、仮にそこで文化庁がですねそんな２人で意見が違うと困るじゃないかと言われてもこれはもう、それが事実ですので、これは致し方ないというふうに思います。現にですね、いろんなところに行って話すときにはまあまあそういう状況も生じますので、そういうときはしっかりとというようにしております。長年の経験

浅井正仁（自民・中川区）：でしょ。ようわかっとなるがね、それも歯止め効くはずないがねね、まあね、いいとしてね、ちょっとこの今回のこの前市長が本物復元にこだわりすぎるあまり結果として障害者の方々を傷つけたとなった、なってしまったと。思われるんだけど、これをまずどう評価するのか出発お願いします。

広沢市長：河村前市長がですね名古屋表が復旧の国宝第１号であったことそして、豊富な図面が残っていること、この史実に限りなく忠実な木造を目指してるというこの強みがあった。私はこのこと自体はですね特段間違ってると思います。

思っておりませんでして、昔のままの特に。名古屋城の場合ですと徳川家康が立てておりますので、僕が家康が見たであろう、その当時の城が見えるという観点においては極力史実に忠実な木造復元を目指すというその方向性はあながち間違っていないのではないかとこのように思います。

ただ、やはりこれはもうこの２１世紀も四半世紀もすぎるといふご時世においてはですね、やはりこのバリアフリーというのは抜いては、語れない。この建造物をいただき、そういう状況でございますので、その中でいかにこのバリアフリーを両立させていくか、この観点をですね忘れては、いけないのではないかとこのように考えております。ですので本来あるべきはまずは木造復元を進めたい。

まずここまでは、当たっては今の現コンクリート天守と比べて何が違うかって言うとはエレベーターがない。

あと他にもですねいろんな基礎構造であるとかもしくはその中でもですね、やはり今はコンクリートでケーソンに乗って釣鐘構造になってるけど、これ目標にしたらどうやって基礎をやるんだその中で、石垣触るんだやっぱり、石垣の専門家にちゃんと聞かなきゃいけないそういうことを本来であれば、丁寧にしっかりとやってですね、詳細な計画を立ててから実行すべきだったと、ある意味それも合意形成ですね。石垣の専門家であるとか、車いすで名古屋城に上がってこられてた障害者団体とか、そういう方々としっかりと合意形成を図った上で進める、これが行政としてのあるべき姿だっただろうというふうに考えておりますのでその点においてはですねやはり先ほど繰り返しであります、ちょっと拙速であったというふうに責められても致し方ないかなと思うところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：とりあえずもう一つ、この総括の資料を見ると、前市長それから松雄副市長の原因が多々出てくるんだけど、この副市長の職責、名古屋城それから先

ほど副市長にも聞いたんだけど、障害者の方のところに行くというところで本当にいいんだらうかなと思うんですよ。その辺、市長さんはどう思われるのかな。

広沢市長：今です副市長の職責について、特にこの名古屋城との関係でご質問いただきました。私も4年間やった当事者としてしましては基本的にはこれ事業というのは局の中で行うものでございます。その上で局から上がってきたこういう方針で進めます。これでいいでしょうかというのに対してで、一応再度チェックを行い欲しいのではないのかなと思ったらそこに意見を言ってもう一度それで、局にフィードバックをしてでそれで改めていくそういう職責だと、最終的に私の目から、副市長の目から見ても、局の上から見ても大丈夫だというそこで合意が取れてからそっから最後、市長に上げて最終決裁を仰ぐとこういう立場であるというふうに認識をしております。

浅井正仁（自民・中川区）：それで職責が全うできると思われますか、今後も。

広沢市長：今の松雄副市長ということでございますか、そうですね松雄副市長につきましてはですね今私も縷々質疑を聞いておりまして、いろいろとご本人も反省すべき点が多いというふうに申しておりました。

ただ、松雄副市長私も局長時代からかなり長いお付き合いでございまして、この名古屋役所内では熱い男ということであつと有名というふうに私も聞いておりましたけど、確かにその熱さゆえに多少勇み足的にもあったのかなというふうには感じてはいるところでございますけれども、ただですねやはり今回この総括するにあたってですね、この再発防止等につきましても、いろいろといろんな松雄副市長なりのいろんな助言をされたというふうに聞いておりますので、これは引き続き所管副市長として職責を果たしていただきたいというふうに私は考えております。

小出昭司（自民・中村区）：市長、ご苦労様です。

今松雄副市長の話の中で、勇み足になったのではないかなというようなお話、熱い男がいつい走り過ぎてしまったというようなお話ありましたが、松雄副市長彼を勇み足にさせたのは誰なんだろうと。それをコントロールするのが上司であって、人には良いところも悪いところも様々な能力を持ってるわけですから、上司がそれを指導していくのが組織だというふうに思うんですが、そんな中で松雄副市長のときにも話が出てましたその指示書、非常に重いものである中において、職員の人たちがそんな中で必死に頑張っ、ある意味、松雄さんもその原因の一つだというふうに言ってみえたんですが、市長のスケジュールありきでの強引な進め方によって、このような問題が起きた根源はそこにあるんじゃないかというようなことも言ってらっしゃいました。何か足りないところないですかというようなお話の中でそういうようなこと言ってらっしゃったんですが、その点においては、市長はどういうふうに思われますか。

広沢市長：その当該の指示書につきましては通常この姿勢におきましては私もそうですが、局と打ち合わせをしますのでいろいろな提案があったり私の方からこういうふうに提案したりいわゆる指示を与えたりすることはありますけどこれは通常、口頭で行いますし、それを局が書き取ってわかりましたと言って、一度持ち帰ってやって、またその後、こういう課題があるので見直してくれませんかこういうようなやり取りがあるの通常でございまして、ただ、最後にいややっぱ課題はあるけど、これで行きたいって言ったら、これ局はわかりましたと言ってそれから事が進むということでございまして、そもそも指示書というのはですね指示書がなくても、市長がこれやりたいと言ったらそれで事進むのが通常でございまして。そんな中で指示書が出た、これ河村前市長が答弁で書いてくれと言ったから書いたんだと、これが本当だとすると本当だと思いますけども、これはおそらく局長も通常であれば、そんなことを書いてくれというふうに言わないですね。

ただここにいたってはちょっとそういう指示書がないとなかなかおそらく部下にこれが出たからこれやってくれという、要はこと口頭だけで、言葉だけじゃなくてもここまで来たからというちょっとそういうやはり異例の事態であったかなと。なぜその異例の事態が起きたかという、やはりそこは、スケジュールが念頭にあって、本来であればどういう課題がある木造復元にはこういう課題があります。それを洗い出して、そうしていればですね石垣の問題、そしてこのエレベーターの問題も当然その中で出て、それらを全てクリアになってから、この復元検討委員会にかけて一発で通ってるのはこういうことがあったかと思いますが、やはりその当時はですね、当初は2020年、それでその次は2022年というスケジュール持ってそこまで間に合わすんだという強い決意が、これは河村市長中でも死守であるとか切腹であるこれはそういうきつい言葉も出ておりましたので、その中でいろいろな問題が起きたかなというには思うところであります。以上です。

小出昭司（自民・中村区）：ということはいろいろ思うところであられるということはスケジュールありきの強引な進め方も大きな原因だったというようなご認識でいらっしゃるということでよろしいですか、

広沢市長：はい、いろいろな原因がございましてそれだけではございませんけれども、確かにスケジュールありきでですねいろんなところに歪が出たというのは確かだというふうに思っております。

小出昭司（自民・中村区）：私はそこが根源的な原因だと。

それによって様々な問題が発生してどんどんどんどん積み上がっていったんじゃないかなというふうに私自身は思っていますので、広沢市長ぜひ、その辺り、今後しっかり頑張っていただきたいと思うんで先ほども浅井委員の方からお話ありました前市長との関係性というの、一般的には気になります。

でも今日残業していただいたので大変素晴らしいなというふうに思いました。しかしながら長いお付き合いでいらっしゃるし、師弟関係でいらっしゃるには違いないわけですから、

恩師でもあり師匠でもある前河村市長がですね、ある種、切腹を命じるほど命をかけたこの名古屋城の展開において、自分の意と違うあの1階2階までとかって言ってらっしゃるわけですから、そのそのあたりはしっかり戦うというかですね、自分の意思を曲げずに、このことに限らずなんですけど、しっかりとやっていただけるというの認識を持っておけばよろしいですか。

広沢市長：今ご指摘の通りですね私はこの着任以来、本会議でも答弁をしておりますが、このエレベーター問題に関しては、可能な限り上まで全ての方をお連れしたいとこういう気持ちでやっていくというこの気持ちに全く揺れございませんので、ご信頼をいただければと思います。

小出昭司（自民・中村区）：ありがとうございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：先ほどもからも度々出てくるこの指示書をですね、この指示本当が非常に大きなポイントであったということ、それから非常に強い強い強制力というダブルですけど、大きな強制力があって、副市長初め、職員の皆さんが非常に重く受け止め、何としても達成するんだというところに引きずり込まれていたもとだと思うんですね。

今の市長はこの指示書を、指示継承するのか、白紙にして撤回するのかというところで、

広沢市長：この指示書はですね1234点ありましてその最後に全ての責任は自分が取るという内容になってございますけど、この1から4はもう既に進んでおりそうだと、残りは最後の全ての責任は私が取るというところが残りますが、これは当然でございますけども、市政全般にわたりましてですね、この市長というのは責任を取るのが職責でございますので、ここについてはある意味変わりはありません。

みつなか美由紀（共産・緑区）：それでもう一点は、総括についてですけれども、やはりこの総括で、もう本当に十分なのかというところは、やはりまだ私はこういう補足したりとかですね、もっと充実深めていく必要があるかというふうに思っています。最初の質問のところでもさせていただきましたが、このまとめのところを見るとですね、いたるところでわかりやすい丁寧な説明をしていく必要があると。かりやすく伝えるための表現の例として、専門用語を控えるとか、直感的に理解できるように図や映像を用いるとか、至るところで、今後丁寧なあの説明ほしい、理解していくことをしていただくことが重要だということは強調されているんですけれども、もちろん情報提供、確かな正確な情報提供、そしてわかりやすい情報提供するということは必要であります。

しかしそれ以上にですね、やはり市民の声を聞くというところはどうかというところでは、なかなか明確な答えがいただけなかったんじゃないかなと私は感じています。

まず一つはもうずいぶん前のことになりますけど、9年前の2万人アンケートここで6割の市民が、木造復元を指示したということがね、ずっと今でも木造復元を進めるということの一つのなんていうんですかね。

市民の人たちの意志もそういうことなんだということが言われていますけれども、市長は9年前の市民の思い今も同じだと思いますか。

広沢市長：私は当時もですね今はやはりこの木造復元がいいという市民の声は変わっていないのではないかと考えており、ちょっとこれは個人的なことになりまして恐縮ですが、私も選挙ときに木造復元を掲げ、その前の選挙でもですね、前河村市長もこの木造復元を考えますそういう点からもですね、大多数と言えるかどうかあれですけどももうかなりの数の方がこの木造復元には賛成をいただいているというふうに考えております。以上です。

みつなか美由紀（共産・緑区）：公約にももちろん掲げておられました。

しかし公約に掲げた物はこれだけでなく様々あります。そういうところへの指示というのもあったのではないかとということも合わせればですね、9年前の市民の思いが今も必ずそうなのかと、そこそこそれ以降、石垣の問題とか人権問題とかってというのがね、大きく出てくる中で、もう一度アンケートするべきではないかと私は思いますけれども、それは局の方での考えもありますが、市民の声を聞くということがですね、なかなかあの総括の中に出てこない、不足してるところじゃないかと。

です。丁寧な説明をします。丁寧な説明をして理解を得ると、でその理解を得る、丁寧な説明と理解を得る、間に、市民の声はもちろん聞きますよということが含まれているのであればやっぱり明文化していただきたいと思いますし、その辺、一応、この総括についていかがですか。

広沢市長：行政が事業を進めるにあたっては、その市民の声というのは大変に大切なものでございますので、今後もいろいろな場面で、この市民のご意見を伺う機会は出てこようかと思います。

まだ今ですねこの総括という段階でございますので、ここで再度で事業の再スタートに立てるかどうかということでございますので、ここで再スタートになりました。

そしたら、そっからですね、このこちらのサマリーの方の30ページにも書いてありますが、この市民への丁寧な説明の中にはいろんな形で市民の声を大きくあめを設けていきたいというふうに考えております。以上です。

みつなか美由紀（共産・緑区）：もう一つですね、今この総括がこの委員会に出されて、様々質問など答弁がされました。、この今後の事業の流れのところでは、この事業の再スタートというまでのところでは、総括が一番の発端スタートで、総括が出されて、議会への報告がされているというところですね。

その次に障害者団体への説明ということになっているんですけども、やはりここにこの総括について市民の皆さんが本当に理解と納得ができいるのかと、やっぱり今日の委員会でも不足しているところがあるんじゃないかという意見もありました。

もう一度やっぱり市民の総括の内容を示しするということはあるんですけども、市民の皆さんから意見を届けていただくということは考えてですか。

ぜひこの意見を届けていただいた意見をさらにやっぱり深めて、総括をし直ししてその後の障害者の団体への謝罪説明だと思うんですけども、いかがですか。

広沢市長：こちらですねこのサマリーの 30 ページにもございますけど、現在この総括から議会のご報告そしてその後、この障害者団体等々の説明の後にですねまた事業の進め方につまましての議会や市民への説明ということがございますのでそれらもあわせましてですね、ここでもう一度市民の方も皆様にご意見を伺うという場合もございますし、今回こういう総括をお示したことに對してですね市民の声というのは、いろんな場面で市長ホットラインもございますし、いろんな形で寄せられますのでそういうあたりはしっかりと注視をしてみたいと思います。

みつなか美由紀（共産・緑区）：様々な場面で市民、今ここにねやっぱり言葉だけでいくと説明をすると、情報提供するということは非常に強調されておりますが、今、市長からの答弁もありました市民の声をしっかりと聞くということもしっかりと進めていただきたいと思います。やっていただきたいと思います。

さかい大輔（公明・南区）：すいません。ちょっと全然聞く気はなかったんですけど、ちょっとこのままで終わったらあれかなと思ったんで。一つお伺いさせていただくと、せっかく市長も見えたんやっぱりこれまで様々、総括も含めて委員会で議論がなされる中で、やっぱり局内のコミュニケーションが取れなかったっていうことは再三、委員からも質問があって、答弁もあったんですが、今回こうやった形で推進ポリシーを出されて共通認識を持つということがありました。

この局内のコミュニケーションということについては、やはりもっともっと私の中での認識はやはり一番重要。先ほど所長からも一枚岩になれなかったという旨のご発言というかそういったものがあったかと思ったんですけども、あのコミュニケーションをですね、やっぱ常にしっかり取っていくっていうことが、やっぱ常に大事かと思うんです。その点に関して、やっぱこれまでの反省も踏まえてですね、現在の市長の認識っていうのを伺いできますでしょうか。

広沢市長：今ですね副委員長ご指摘の通りこのコミュニケーション、特にこの私と局員であるとか、あとは局長とその部下であるとか、そういうところの風通しいい何でも言い合えるというのは本当に大事でございましてですね、そこは私も本当に組織を預かる身としては一番大事にしていると言っても過言ではないところでございまして、とにかくその

前に行くとも緊張するとかです。そういうことがない組織がそれ違うんじゃないですか。って思ったら上司でも、どれだけ上司でも本当に市長でもちゃんと言えるような、そういう雰囲気作りというのも大事だというふうに思っておりまして、ともすると本当にこの役所の中においてもトップダウンが非常に強い役所というのもあるやに聞いております。

もうそういう中では、もう上司の命令は絶対だというようなそういう雰囲気をところあるようですが、私は決してそういうふうにはしたくはありませんので、私の雰囲気というのがまた局長や、部長を通じてですねまたその下の一般職員にも伝わっていくのではないのかなとそんな中でいろいろと本当に忌憚のない、もう一般職員でも全然問題ないので、どんどん意見を出していただいて一番良い案を作っていくと、これが一番市民のために結局パフォーマンスとしてもなるんじゃないかというふうに固く信じておりますので、そのように進めてまいりたいというふうに思います。

さかい大輔（公明・南区）：はい、ありがとうございました。

今の雰囲気っていうのは市長どうですか。局内の雰囲気、市長から見て、風通しが良い雰囲気になっているのかどうか、伺います。

広沢市長：そうですね私の感覚で言うと、極めて風通しは良いのではないかなというふうに割とレクの途中でも、いろんな人が意見を言いますし、または声も出たりですね。

緊張したような雰囲気は、多分レクの中ではないという考えておりますので、こういう雰囲気は大事にしたいと。たださりながら緊張感が足りないというのもこれまたよくありませんので、そこは一定の緊張感を保ちつつ、そういう和やかなというか、萎縮しない、職員が萎縮をしないですね。そういう雰囲気作りには努めてまいりたいというふうに考えております。

さかい大輔（公明・南区）：ありがとうございました。

そういった雰囲気というのは私もこの委員会所属させていただいて、途中で市長がやっぱり変わったという経緯のところもありましてですね、他の委員からも浅井先生からも局長の雰囲気が変わったねみたいなご指摘もあったかなということはですね、本当になんかよく思い出すところではあるんですけど、やはりの木造復元事業っていうのは、少しでもやっぱりほころびが出てくるとですね、達成できないようなやっぱ難事業ではないかなと思うんです。

そこで考えるとやっぱ局内も含めてもちろん市長のリーダーシップ、あとはこの議会との合意形成も含め、また市民の代表である議会とまたその市民の方々の思いというものも全てを含めてワンチームにして取り組んでいくべき事業でありますし、やはりこれが決まってから数年で終わるかということやっぱそれから年数をかけて取り組む事業である中で、やっぱり局内でもいろいろ担当が変わったりポストが変わったりいろんな変化点が様々な経験しなければいけないことがあると思うんです。

そういったこの横の繋がりと、本当にこの縦の繋がりとということをやはり 1 チームにどれだけまとめ上げていけるかっていうところがですね、今回市長来ていただいて、いろんな考えはつまびらかになったと思うんですね、そういったリーダーシップを今後しっかり発揮していただいて、着実に進めていただきたいなということを最後に要望させていただいて、以上です。

浅井正仁（自民・中川区）：はい最後はもうね、ちょっと市長さんにも来てもらったもので、ちょっと聞いてほしいんだけど、今回のこの資料で、新しいスケジュールで、まずね、添付資料の 137 ページを見ていただきたいと思う。

これはね、元年のときのスケジュールね。元年のとき、いわゆる市長さんが副市長のとき、解体先行のスケジュールであって、これを見るとね、発掘調査それから現主現天守閣解体、それから穴蔵石垣の解体、各調査天守木造復元の四つの項目にわかれてます。

このうちに発掘調査、穴蔵石垣、穴蔵石垣の解体、発掘調査は史跡の保護であり、現天守閣解体は、現天守閣の価値の評価となります。そして天守木造復元はこれが機運醸成という構図につまりこのときのスケジュールはね、この広沢市長が令和 7 年 2 月定例会で欠くべからざる、欠かざる要素だと答弁した内容これしっかり書き込まれている次に見てほしいのは 158 ページ一番最後のページ。これが令和 4 年のときのスケジュール。要は一括で持っていという。

でもねこれ一括ではね、何もできないんだなぜなら、現状許可を一括でなんか出せっこないから、解体しなきゃ穴蔵調査なんかできないでしょ。穴蔵調査ができなかったら、礎構造は変わらない。だから一括なんて無理なんで僕はそれをね何回も言わさしてもらってうん、委員会でも言わさしてもらったら、松雄局長の時代かな。言ってる意味がわからないとまで言われた。

今回ねこの新しいスケジュールが 90 ページか。90 ページを見ていただきたい。

これが今後想定するという、これはちゃんとしたものになってる、これならいけるんですよ。

一つ言うならば、現状変更許可の復元検討委員会ね、整備基本計画を取りまとめた復元検討委員会というか、多分ここにはね一部復元っていうのが入ってるのでここに入ってくけど、復元検討委員会は、穴蔵の調査と書いてある関係ないですよ、この建物だけだから。だからこれは下へずっと伸びて、復元のところまで行くというだからこれ現状変更許可が 2 回あるでしょちゃんとね、だからこれでいくと穴蔵の調査ができて基礎構造ができるという、だからよくこれを修正したなと思って、うん、せっかく市長がここにお見えになったもんでこれもやっぱり市長の手腕なのかなと思って、これでね合意形成を図っていただきたい。多分まだ文化庁とは合意形成とってないでしょ、どうなんですか。

所長：まず今回の総括の内容に関しましては文化庁に対しては、話してはおりませんで、このスケジュールにつきましては少し見方というのは少し難しいところがございますで、解体先行の令和元年のときの流れと似ているようで、あくまでも一体として測った中で、

ただし、やはり穴蔵を調査しないとわからない部分あるので、そこを踏まえて、またさらに現状復興ってというような、２段階にはなっているんですけど、全体としては一体としての木造復元と書いた一体、スケジュールということでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：でね、これで有識者の方に諮ってね、木造復元広島や福岡、言われ出したんです。

第１号なるべく何とか頑張っていたきたいということですね。一丸となって、やりましょうということで終わらせていただきます。、

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：他にはよろしいですか。

他にないようであります。それでは市長に対する質疑はこれにて終了いたします。

市長におかれましてはご退席いただいて結構でございます。ご苦労さまでした。

それではその他、何かこの際よろしいですね。では以上で本件を全て終了をいたします。

それでは当委員会は本日が最終ということになろうかと存じますが、ちょっと当局の入れかえを先にさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

いいえで終わりがかなと思ったら、触発されて、それでは、先ほど申し上げました通り、当委員会は本日が最終ということになろうかと存じますが、正副委員長を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げさせていただきたいと存じます。

昨年以來ですね私としては、昨年の９月から委員長と突如委員長ということでありましたんですが、こうして委員会運営がここに滞りなく行いましたことはひとえに委員の皆様、そして当局の皆様のご協力のおかげというところに心から感謝を申し上げたいというふうに思っております。

当委員会におきまして、委員の皆様から出されました様々のご意見、そして要望等を今後の市政運営十分にお役立てをいただきますように心からお願いを申し上げまして、正副委員長としての代表のご挨拶に代えさせていただきます。

１年間どうもありがとうございました。

それではこの場合、当局より発言を求めておられますのでお許しをいたします。

上下水道局長：お許しをいただきましたので、一言お礼を申し上げます。

この１年間、経済水道委員会におきましては、慎重かつ、大変にご熱心なご審議を賜り誠にありがとうございました。

ご審議の中で頂戴いたしました貴重なご意見ご要望につきましては、十分にその意を踏まえまして、今後の事業運営に反映してまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いを申し上げます。

甚だ簡単ではございますが、お礼のご挨拶をさせていただきます。

どうも、ありがとうございました。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：それでは本日の予定は以上であります。これにて本日の委員会を散会をいたします。お疲れ様でした。